

要旨

本研究では、北海道博物館のアイヌ展示の展示内容及び展示の標的集団において達成されることが期待されていると考えられるアウトカムが、現在の北海道博物館のアイヌ展示に対して求められている社会的ニーズとどのように関連しているかを明らかにした。

はじめに、現在の北海道博物館のアイヌ展示に対して求められている社会的ニーズを明らかにした。そのための手順として、まず北海道博物館のアイヌ展示を、北海道に居住する和人を対象としたプログラムとして捉えたうえで、北海道に居住する和人が抱えているアイヌ民族に関する問題を、差別・不平等の問題と認識・理解の不足の問題に分けて定義した。次に、定義した問題について、解決の方向性のあるべき状態について整理した。さらに、展示の標的集団を直接標的集団と間接標的集団に分けて定義した。そのうえで、先に定義した問題の背景・要因としてアイヌ民族に関する政策について整理し、アイヌ民族に関する理解の促進の関連プログラムとして学校教育、アイヌ民族文化財団による普及啓発促進事業、公立施設における展示について整理した。その結果、北海道博物館のアイヌ展示に対して求められている社会的ニーズは、北海道に居住する和人に対し、アイヌ民族と和人の関わりの歴史をアイヌ民族と和人双方の視点で通史的に語り、また現在のくらしの様子及び文化・言語振興の活動について具体的に伝えることを通して、アイヌ民族が先住民族であることについての理解を促すとともに、アイヌ民族と和人の関わりの歴史を「自分事」として捉えるよう促すことだということが明らかになった。

次に、北海道博物館のアイヌ展示の展示内容を整理したうえで、展示の標的集団において達成されることが、展示制作者側において期待されていると考えられるアウトカムを明らかにした。その結果、間接標的集団において達成されることが期待されていると考えられる最終アウトカムは、「北海道に居住する和人が、アイヌ民族の歴史的経験を含めて北海道の歴史を語りつぐとともに、アイヌの人びとの存在や多様な考え方・文化を尊重し、ともに活動しながら、豊かな地域社会や地域文化を創造していくようになる」ことだということが明らかになった。

最後に、北海道博物館のアイヌ展示の展示内容及び展示の標的集団において達成されることが期待されていると考えられるアウトカムと、北海道博物館のアイヌ展示に対して求められている社会的ニーズの関連性について考察した。アイヌ民族が先住民族であることについての理解を促すという社会的ニーズについては、展示制作者側が達成を期待しているアウトカムのレベルでは概ね反映されていると言えるものの、具体的な展示内容としては部分的な反映に留まっているか、複数の点について伝える意図が交錯してしまっていると考えられることが明らかになった。また、アイヌ民族と和人の関わりの歴史を「自分事」として捉えるよう促すという社会的ニーズについては、以下の2点を指摘した。展示において、北海道に居住する和人が自身を重ね合わせることができるような存在が限られていること、及び現在のアイヌの人びとのくらしの様子や北海道の文化を、アイヌの人びとのくらしのあり方が変化した結果として位置づけるように促せていないこと、の2点である。これらの点から、アイヌ民族と和人の関わりの歴史を「自分事」として捉えるよう促すという社会的ニーズについては、反映されていないと言えることが明らかになった。